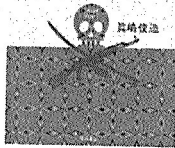


正しい戦争はあるのか？

眞嶋俊造 著

正しい戦争は  
あるのか？

戦争倫理学入門

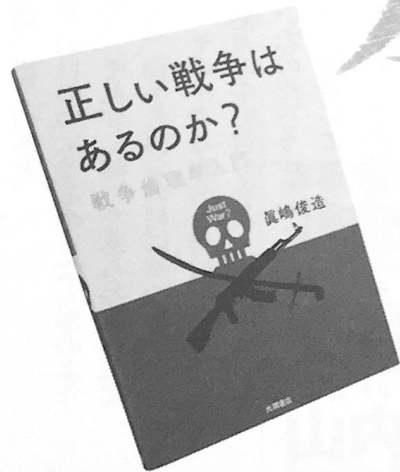


戦争は悪であり、根絶すべきだと多くの人が思う。だがそこで思考停

止してはまずい。なぜ、どのように悪なのか。古今東西、なくならない理由はどこにあるのか…。気鋭の倫理学者が戦争の本質を鋭く問い直す。5章構成の本書では、「戦争倫理学」の中でも

「道徳的に正しい戦争がある」とすれば、どのようなものか」を考える「正戦論」を解説。歴史や展開、現実の政治や軍事における使われ方を紹介し、科学と戦争、拷問やテロ、原爆投下などの具体例を倫理的に考察する。(大隅書店・3024円)

「京都新聞」2016年5月14日



正しい戦争はあるのか？  
戦争倫理学入門

眞嶋俊造 / 大隅書店 / 3024円



だれが沖縄を殺すのか  
県民こそが「かわいそう」な奇妙な構造

ロバート・D・エルドリッジ  
PHP新書 / 864円

直 部 苺

政治学者・日本政治思想史

目をそむける問題に、  
真正面から切り込む。

誰もが薄々、それが大事な問題だとわかっているのに、目をむけようとしな

問題というものがあ。眞嶋俊造『正しい戦争はあるのか？』が表題で掲げている、「正しい戦争」をめぐる議論は、その典型と言えるだろう。

たとえば暴力についてみれば、暴力をふるうのは悪いことだとみなが思っている。警官が犯罪者を逮捕し拘束する行為がいけないとは、誰も言わない。それはあらかじめ、この範囲での実力行使なら許されるという基準が、法律や規則によって定められており、そのルールをみ

なが正当なものとして承認しているからである。

本来なら、戦争についても同じことが言えるはずだろう。突然に他国から侵略を受けたような場合に、実力でみずから守ろうとすれば戦争になる。そのとき、軍事力による反撃を正当化する原則はいかなるものか。また、戦闘において許される行為と、民間人への攻撃などの許されない行為との境界線をいかに引くか。敵軍をはねかえすだけの攻撃しか許されないのか、それともさらに相手国の政権を打倒するところまで進めるべきな

のか。そうした事柄を吟味するのが、アウグスティヌスやトマス・アクィナス以来、論じられてきた「正しい戦争」をめぐる議論、すなわち正戦論である。

いまの日本では、日本国憲法の平和主義を尊重することが、多くの人の常識になった結果、戦争そのものを悪として排除し、戦闘行為のうちで許されないものと、悪のより少ないものとを区別することとを、不純な発想と見なし避けてしまう傾向がある。その結果、たとえば緊急事態によって自衛隊が本格的に防衛活動を始めるとき、その行動にいかなる制限を

設けるかという議論が、倫理学としては空白のままに放置されている。眞嶋の唱える「戦争倫理学」とは、そういうさいに一般市民が軍事活動について評価し、適切にコントロールするための論理を提供しようとするものなのである。

ロバート・D・エルドリッジ『だれが沖縄を殺すのか』もまた、ほとんどの人が目をそむけ、放置している問題に真剣にむきあうよう、読者をうながす一冊である。沖縄が苛酷な地上戦を経験し、戦後しばらくは米軍の統治下に置かれ、現在も少なからぬ面積の土地を米軍基地に提供していることは、たしかに事実である。その苦難の歴史を背景にした基地反対運動と、それを支援する地元メディアの報道について、日本本土のメディアはしばしば聖域のように扱い、その言動をほめそやしている。

しかしその実態は、基地負担を加重に見積もろうとする数字のトリック、米軍関係者の犯罪率が高いかのような報道、本土から来た活動家を支える違法な抗議活動など、さまざまな欺瞞に満ちている。沖縄問題をめぐる外交史の専門家でありながら、在沖アメリカ海兵隊に転職し、反対運動からの攻撃によってその職を去った著者の指摘は重い。真実をまっすぐ見つめ、みずからの判断をごまかさずに、勇気をもって発言することの大切さを、改めて実感させる本である。●

# 正しい戦争は あるのか？

戦争倫理学入門



眞嶋俊造

手に持て、  
武器よりこの本を。

ISBN978-4-905328-15-5  
C0012 ¥2800E

定価 [本体2,800円]+税



9784905328155



1920012028009

Just  
War?

成蹊大学図書館主催

書評&キャッチコピーコンクール 2017

キャッチコピーの部 佳作

経済学部経済経営科 1年 K. D. さん

文化の森  
Bunka no mori



東京工業大リベラルアーツ研究教育院教授 真嶋俊造さん



ロシアによるウクライナ侵攻は、戦争の悲惨さを改めて世界にさらけ出した。一般市民に犠牲をもたらし、街を破壊する戦争が「悪」であるのは疑いない。では、なぜ、どのような点で悪なのかを倫理学的な視点から考えるのが「戦争倫理学」だ。日本でなじみの薄い学問を研究する東京工業大リベラルアーツ研究教育院の真嶋俊造教授(47)にそのポイントや現代的な意義を聞いた。

——戦争倫理学とはどんな学問ですか。

道徳的だ「善」「悪」や「正しい」「不正」を評価し判断する倫理学のアプローチを戦争に応用したものです。武力行使や軍事占領など戦争の具体的な事象について倫理的に許容されるのか、されないのか、なぜそう判断できるのかを論証します。戦争倫理学はベトナム戦争をきっかけに英米圏で1970〜80年代に盛んになりました。生命倫理学や環境倫理学などと並び応用倫理学の一つですが、日本ではあまり知られていません。私が英米での研究から帰国し「戦争倫理学を研究しています」と言うと、「戦争に倫理があるのですか?」と驚かれたこともあります。

——戦争倫理学に「正戦論」という考えがあるそうですね。

正戦論は道徳的に「正しい戦争」か「それとも」「不正な戦争」かを検討し、評価する枠組みです。歴史的に西洋のキリスト教の社会倫理から発展し、近代国際法に引き継がれてきました。

正戦論では、戦争を始める際の「戦争の正義」を判断する基準として、①正当な理由 ②正統な機関(国家や国際機構) ③正しい意図④最終手段(他の非軍事的措置が尽くされた) ⑤成功への合理的な見込み⑥結果の比例性(戦争によってもたらされる善と悪が

# 戦争は「悪」理由の理解を

釣り合う)——の六つが用いられます。全ての基準を満たせば、その戦争は正しく、一つも満たされなければ不正とされます。

正戦論は現代国際法とも親和性があります。例えば、外部からの武力攻撃などに対し個別または集団的自衛権の行使を限定的に認める国連憲章には正戦論の考えを見ることが出来ます。

——ロシアのウクライナ侵攻は国際法違反ですが、正戦論からみるとうなりませんか。

プーチン露大統領は侵攻直前の演説で、ウクライナ東部のロシア系住民保護や国連憲章51条(自衛権行使)などを挙げて「特別軍事作戦」を正当化しました。しかし、プーチン氏が目的の一つとしたウクライナの「非ナチ化」は、同国のゼレンスキー政権を一方的にナチとみなすレッテル貼りで、「正しい意図」の基準を満たしているとは言えません。侵攻が「最終手段」だったかについても疑念があります。このように正戦論でロシアを正当化するのには困難だと考えます。

一方、ウクライナ側がロシアの侵略を阻止または追い返すために武力行使するのは自衛・防衛であり、「正当な理由を満たしています。ただ、ウクライナが総動員令で18〜60歳の男性の出国を原則禁止し、開戦当初に政府系組織が

## 応用倫理学の一つ 平和を守る方法に

まじま・しゅんぞう 1975年、東京都生まれ。専門は倫理学・応用倫理学。慶応大法学部卒、同大大学院修士課程修了。米シカゴ大修士と英ハミンガム大(博士)で研究後、北海道大准教授、広島大准教授を経て2020年から現職。著書に『正しい戦争はあるのか? 戦争倫理学入門』、『平和のために戦争を考える 「剥き出しの非対称性」から』など。

ロシア兵捕虜をネットで公開したことは戦争倫理の観点から問題がありそうですね。

——正戦論は戦争を正当化することになりませんか。

攻撃する側が国益追求のための武力行使の隠れみおとして正戦論の言説を「ハイジャック」することは起こりえます。しかし、全ての基準を満たす「正しい戦争」は実際にはありえないでしょう。正戦論はあくまで「理念型としての正しい戦争」を構築することで現実には起る戦争を批判的に検討しその戦争がなぜ、どのように悪であり、不正であるかを暴き出すためのものです。正戦論の本質は戦争をいかに制限・抑制するかにあります。

——私たちが戦争倫理学を知る意義は。

武力を行使するのは主に国家ですが、いったん戦争が起きると、最も割を食うのは民間人です。日本が武力行使をしたり、されたりすることは今のところ考えられなくても、戦争に巻き込まれる可能性はゼロではありません。戦争について「ダメだからダメ」で思考停止するのではなく、戦争が悪である理由を理解し、政府を批判的な目で監視することが戦争を起させない一つの方法です。戦争倫理学や正戦論は私たちが信念を持ってコミットするためのツールになると思います。

【聞き手・田中洋之「写真も」

### 記者のひとこと

真嶋教授によると、正戦論には戦争を始める際に問われる正義のほか、「戦争における正義」という枠組みがある。始まった戦争の手段や方法を道徳判断するもので、民間人ら非戦闘員を意図的に狙った攻撃や無差別爆撃などは不正とみなされる。戦争の悲惨な状況に歯止めをかけることを意図しているが、ロシアが侵略を続けるウクライナでは住民虐殺や原子力発電所を砲撃する前代未聞の行為が横行している。歴史上繰り返されてきた戦争が地上からなくなる日が見通せないとなれば、現在進行形の「悪」を直視し、よりリアルに考える必要がある。